



下村健一の「手づくり動画」ウオッチ

元TBS局アナ兼取材記者。報道番組などに出演するかたわら、一般市民の映像制作を支えるアドバイザー歴14年。現在、慶応大学特別招聘教授（マスコミュニケーション）

今 回の水害現場と同じ  
広島市内にあ

る、山裾を造成した住宅地＝写真／作品から。4年前の夏、そこで小さな洪水騒動があった。報道されなかったその経緯を住民がビデオに収めた貴重な手作り動画がある。

大雨の中、小ぎれいな家々の目の前にある石垣の上から、茶色い水が滝のように激しく路上に流れ落ち始めた。「おーい、ちょっと皆に知らせて！」「危ないよ、崩れる。崩れる！」「どこが？ ギェー、どうするんね!?!」「避難しよう、避難！」と、撮影者と近所の人たちの生々しい会話が続く。

恐怖を抱きつつも原因を探るべく、カメラを回しながら濁流の上へとさかのぼって行く撮影者。結果的に無事だったからよいが、これは危険な賭けだ。「川の様子を見に行き流された」という水害犠牲者のニュースをよく聞くが、「遭難直前はきっとこんな状況から急転するんだな」とリアルに想起される。

もう一つのリアリティーは、時々挿入される、普段の光景だ。「山から流れる澄んだ水。しかし、この水が大洪水を引き起こしたのです」という作者のナレーションとともに、平時の水

住民が撮った洪水騒動

路の静かできれいな流れなどが映し出される。

これぞ、手づくり動画の真骨頂だ。災害が起きてから撮る大手メディアのニュース映像からは、結果しか見えない。住人の動画だと「普段のこの水路がこうなった」という変化がわかる。見る者は「あ、特別な場所じゃなくて、うちの辺りと同じ



なんだ」と、一気に“人ごと、意識が吹き飛ばされる。

結局、この時の出水は、作者が心配した土石流には至らず、また今回もこの地区は大雨を免れたそうだが、この動画が警鐘となり、地区としての治水への取り組みが進行中だという。

☆「団地はパニック！」7分弱／日高道徳(58)作

【視聴するには】「団地はパニック」でネット検索

＊次回は9月26日掲載